

<本年度会長方針> 夢や希望を語り合おう

地域を育み、大陸をつなぐ

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル  
会長 岩崎 征一 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F  
幹事 松本 哲朗 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008  
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

<2010-2011年度 R.I.テーマ>

R.I. 会長 レイ・クリンギンスミス  
Ray Klingensmith

第1282回例会

新世代のための月間

平成22年9月9日(木)

SPEAK OUT DAY

於 名古屋東急ホテル

会員61名

出席計算数

57名中52名出席

出席率91・23%

前及前回出席率84・62%

ロータリーソング

「君が代」「我等の生業」

指揮者 大原 敏正

ピアノ伴奏 富板 玲子

ニコボックス

青木さん・宇野さん卓話楽しみで  
す。 岩崎 征一  
卓話楽しみにしています。

草野 勝彦

青木さん・宇野さん今日の卓話楽  
しみにしています。

日比野富十男・丹下 富博

皆様お元気ですか！ 岡部 快圓

娘の誕生日です。 川畑 博敬

良いお知らせです。 横内さんはま  
だ面会謝絶ですが意識がもどって  
きました。ご回復をお祈りします。

残暑お見舞い申し上げます。

吉田 隆彦

誕生月です。

横井 衛

浅野 彰

杉本 英夫・石黒 正城

三好のラフはキビシかったです。

またチャレンジしたいですね！

春日井和良

昨日はゴルフ例会お疲れ様でした。

青木 靖高

会長挨拶

岩崎 征一

名古屋港ポートタワー

名古屋港ポートタワーは、名古屋  
港の水際に建つ地上36メート  
ル、最上階に展望台、低層階には  
名古屋海洋博物館やレストランな  
どを持つ施設で、白い帆船をイメ  
ージした大胆なデザインは遠くか  
ら見ても目に留まります。また展  
望室からの眺望もよく、現在では  
名古屋港のみならず、名古屋のシ  
ンボルの存在となっております。

設計は全国公開コンペで選ばれ  
た村瀬卯市氏が担当しました。建  
設にあたって現場監理をした名古屋  
市の担当者からは、港という悪  
条件の中で特に留意したことは、  
想定外の暴風対策、地盤沈下、地  
震対策等、一般的な建物では



計算できない問題点が発生し何度  
か工事を中断した事も有り予想外  
の工事期間を必要としたとのこと  
でした。

村瀬卯市氏はその後、数多くの  
コンペに参加し箱根国際観光セン  
ター、豊明市文化会館等の作品を  
残しています。

新入会員卓話

「仕事と私」

青木 靖高

皆さん

こんにちは

は。青木

靖高です。

私がこち

らの名古屋大須R

Cに入会させて頂きましたのは今

年の4月です。月日の経つのは早

いものでおかげさまでだいたい

ヶ月目になりました。そして、よ

うやくと言ったついに新入会員の

卓話をする時がきました。本当は

もう少し早くにもやるのかなと思って

いましたがさすがにロータリー、

例会、行事等が忙しく新入会員卓

話は先送りの本日に言いつこ

とになりました。

RCに入会してはどなく先輩方

から新入会員は必ず卓話といつRC

恒例のスピーチの時間があると

お聞きし、何を話していいものか

解らず内心とまどっていました。

先輩がなんでもいいんだよ仕事の  
ことか、家族のことか自分の  
ことかなんでもいいんだよ、と  
言われましたがなにをどう話して  
よいものかと解らぬままに時  
はすきついに私の卓話の時間がき  
きました。ただ卓話先送りになっ  
たことがよかったです。皆さん  
と5ヶ月間毎週のように食事を  
し話をさせて頂いたおかげで何を  
話したらよいのかが私なりに少し  
理解できたような気がします。そ  
して卓話のタイトルは仕事と私と  
いうことになりました。  
ではタイトルの最初の私の仕事  
についてお話しさせて頂きたいと  
思います。話の内容をいたしまし  
ては警備業について、私がいつ  
ごろこの仕事を始めて今は何ど  
のように仕事をしているのかとい  
うような話になるかと思えます。  
さて、わたしの仕事ですが入会  
挨拶の時にお話しさせて頂きまし  
た通の警備保障の会社をしていま  
す。警備保障の会社と言いまして  
もいろいろあるのは皆様ご承知の  
通りかと思いますが、少し説明さ  
せてください。まず第1に施設警  
備があります。建物施設等の保安  
の仕事です。第2に雑踏交通警備  
です。これは人や車を誘導する仕  
事です。第3に輸送警備です。こ  
れは貴重品や現金などを安全に運  
搬する仕事です。第4に身辺警備  
です。これは要人等をガードする



仕事です。最近ではお年寄り、女性、お子さん方の身の警備もこれに含まれます。そして最後に皆さんがよく存じの機械警備です。皆さんのお家でも入っている方もみえるかと思いますがセコム、アルソック等が行っている出入り口や窓等に警報機を取り付けて不審者の侵入により警報機が発報したときに警備員が駆けつけるという警備です。大きく分けてこの五つの警備業務があります。そんな中で私どもが許可をいただけるのが施設警備と雑踏交通警備です。ここで少し警備業法ができた背景について説明させていただきます。警備業法という法律は昭和47年に施行されました。警備会社は法律が施行される以前からすでに存在していたと聞いています。その頃の警備会社というのは誰でも警備業をやりたいと思えばすぐに誰でも何の制約も受けることがなくつきたのです。そんなわけですから警備会社とはこんな仕事をすればよいのかというところをあまり理解していない会社もあったかと思えます。そして企業から頼まれれば正式な労使交渉の場でも企業側にたつて従業員の方を制圧したり、又施設等においては施設を利

用している人などに職務質問など警察まがいの行為を行ったり、交通誘導警備の現場では一般に走行している車に好き勝手に交通整理をしたりとあまりにも不良な行動が目につくようになっていたのです。その時点で警備業にはルールも規制も何も無い状態ですからきつんとした仕事ができるわけがありません。ですから一部の不良な警備員と警備会社のためにじめじめに仕事をしている警備会社共々社会的信頼を失いかけたといえます。そのような経緯を経た後に警備会社というのは依頼者の生命財産に対して安全と安心を提供する業務であると言ったことで正しいルールと規制作りをするために警備業法が制定施行されました。警備業法については話が長くなりますので今回説明は控えてさせていただきます。

次はわたしがこの仕事を始めた経緯です。まず私どもが会社を発足したのは昭和52年10月であります。考えてみればまだ私が23才の時です。会社発足の前まで私はサラリーマンをしていました。私が勤めていた会社の際に親父が当然訪ねてきて警備会社をやめることになったから会社をやめて来いというのです。私は突然のことでしたが親父の命令ですから会社に退職願を出し辞めることになりました。本当はめまり辞めたくはなかったのです。会社も引き留めてくれませんでした。なぜなら私はその会社で営業をしていて成績もよく全営業社員の中でベスト10に入っていましたし給料も手取りで35万円位もらっていたからです。そのおかげで早くに錦3丁目までニューササセていただきました。これは警備会社を始めた後の接待営業に随分役立つたかと思えます。

そして私は23才の時に警備の事は何も解らないままに業界に入ることになったのです。その頃にはすでに警備業法は存在していましたが警備会社をするには各都道府県の公安委員会に届けを出さなくてはなりません。親父共々警備業法の欠格事由に該当しない旨の書類など必要書類を揃えて届出して警備業を始めたのです。会社を始めても親父も私も警備の経験はまったくありません。ましてその頃は今のようには警備業協会も無く警備業を指導したり警備員を教育するところなどはどこにもありませんでした。そんな状態でしたから最初は募集して入ってきた警備経験者の人たちから仕事のやり方を教えてもらい仕事を覚えていきます。最初はそんな状態からのスタートでしたが取引頂いていますユーザー様のおかげで現在まで33年間無事に仕事をさせていただいております。

私どもが現在メインで行っている警備業務は雑踏交通警備ですが、警備というのはどの形態の警備もユーザー様から依頼を頂いてはじめて警備業務を行うことができるのです。そのご依頼に対して私ども大協警備が行っております警備業務というのはどの警備業務にも共通していることですが、警備というのはユーザー様の一番近いところで業務を行う場合がありま

す。時として警備員は影的存在でありユーザー様に対しては目も口も持たず警備中知り得た情報は決して口外せず、又外に対しては実態を示し抑止力として存在し目となり口となりユーザー様の名誉を守るの信頼を保ちユーザー様の生命同様に財産においても損害や不利益を被ることがないように安心と安全を提供するという業務を行っています。

続きましてタイトルの私についてです。これはロータリークラブに入会程なく先輩から新会員の卓話では自分の現状なんかを話してもいいんだよと言われ、私事でございませうとお話しさせて頂きたいと思えます。これはこの先皆様にご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんので前もってお話ししておきます。

最初皆さんのところに邪魔させて頂いたとき私を見て驚かれた方もいたと思えます。私には熱傷が体全体の70%近くあります。こ

れを負ったのは32歳の時です。原因は私の不注意であっという間の出来事でした。その後、数年にかけて皮膚移植等の全身麻酔の手術を十数回しました。そんなことをしていると内臓器官にもかなりの負担がかかり10年後の42歳の時、その年の夏に現場で仕事をしていた帰ってきて夜ベットで横になると、どこからともなくフクフクとコップの水をストローで吹いたような音が聞こえてくるようになります。最初は何なのかも解りず寝たり起きたりしていると、起きたときに音は治まるのです。そんな状態ですから週末仕事を休んで病院へ行ったらと、肺の中はすでに水でいっぱいでもう少し遅かったら死ぬとこだったよと言われ即入院をせられました。私としては軽い気持ちで病院へ行ったらそんなからびっくります。そしてその時はじめて腎臓機能がかなり低下していることを知りその年の暮れに透析を始めました。その後透析をはじめた2年たった頃、今度は中学生の息子達の柔道大会の応援に蒲郡まで行き息子の勇姿をビデオに納めようと観客席の手すりから身を乗り出したときにこれまたあっという間に3メートル程落下、背中を強打してあばら骨を数十カ所損傷しました。胸のレントゲンを撮ると今でもあばら骨はばらばらです。今でも時々胸の内側

## 新人会員卓話

### 「緑のある生活」

宇野 史仁



から何かが刺さったような痛みが走る時があります。3度も死ぬような目に遭い今は体の外も中も骨まで痛まらざるを得ず。それでも気持ちだけは負けずに頑張っています。時々入らなくなる時があります。透析の方は今14年目です。毎週月、水、金の夕方から5時間行っています。今は随分慣れましたので透析そのものは辛くはありませんがなんといっても時間を制約されるのがしんどいです。ロータリーには夜間例会等もありますので例会と透析が重なる時は前もって解っていれば透析の変更の出来る時もあります。長期に出かけることは出来ませんがクラブ例会時に於きましても皆さんにご迷惑をおかけすることがあるかも知れません。こんな私ですがどうぞよろしくお願ひいたします。

最後に大須R.C.に入会して今日まで15ヶ月たちましましたが、最初は私にとって未知な世界に足を踏み入れたような気がしていましたが今は毎週皆さんと顔を会わせらるるのことがとても楽しみになってきました。まだ解らないことはありますが今後私なりに一生懸命つとめて頂きたいと思っていますのでこれからもうちょっと優しく指導して頂けますようにお願いいたします。本日はいつも有難うございました。

だ若い人たちが率先してやるような仕事ではないかと思ひ、この職業を選びました。当然、若いころは現場の職人として最前線で汗をかき、現場で指揮をとっていました。今はかなりの体制が整いつつあり、営業、キャドデザイン、積算、職人という体制まで整つてきました。そろそろ本題にはいりませぬ。

庭とは…昔でいえばせいいたく品の中のひとつだったのかも知れませんが今ではあまり必要とされない職種の一つになっているのかもしれないですね。公共工事でもおもな仕事は草刈りや街路樹剪定であまりばつとしない仕事が多いと思います。僕の親世代のバブルの時代にはほんごうの家には樹木が茂り、多くの緑がこの日本を囲つていていました。しかし、今の時代には法律でも決められていない限り樹木を必要としない家庭が多くなっています。実際にその工事を携わる僕たちも多くのお客様に

樹木はいらぬ。あつてもひとつくらいで十分ということを言われています。はたしてそれで本当にいいのでしょうか。

僕はめっちゃくちゃ樹木が好きで自然が好きで今の仕事に就いたといつわけではありません。ただ、働く手段として造園業に携わろうと思っただけで、そこまで強い意志はありませんでした。しかし、仕事をやっていくにつれ、もっと庭を造りたい、多くの作品を作りたい、そう思うようになり、独立を試みました。最初のころはすごく大変で苦境が仕事をして見ただ目や経験が少ないだけに見事に仕事の受注は数えるだけでした。それでもあきらめませんでした。決して弱気にもなりませんでした。やるだけのことをしてそれから評価が付いてくると思っていました。失敗も多くなりました。多くの赤字の現場もありました。それは今となっては多くの経験として、今に至るまでできました。大社会を生きていく中で人が安らぐ空間が必要だと思ひます。大昔であればそんなことは必要なかったのかも知れませんが今の社会はストレス社会です。なにかあれば裁判だ、補償問題だ、とかとにかく生きていく中で疲れる環境であることに間違いありません。僕たちがやっているものはそれを癒す、リラックスできる環境を提供すること。それ



### 自然の大切さ

僕たち人間は樹木がない限り生きていけません。もちろん逆でもあります。だからこそ共存共栄をしていくための都市景観を考えなくてはいけないと思ひます。まだまだ僕のレベルで都市景観を考えなくていいという依頼はありませんが何をどうすればいいのかを単純に考えることでそれは出来ていくことだと思ひます。生活する中で僕たちは必ず二酸化炭素を排出するわけで僕たち一人一人が樹木と向き合ふべきだと思ひます。今の世の中、人に頼りすぎな部分が多くあり、本当に一人ひとりで向き合ふことができていないと感じます。僕も今、この職業だからこそいえるのかも知れませんが、間違

いではないと思ひます。多くの植木が毎年この地球上から消えています。それをみんなが保護してあげないと思ひます。樹木が根を張ることで地盤もしっかり固まり、木陰を作り、家を作る建材になってくれるわけです。

### ヒートアイランド現象

今まさに四季が奪われようとしています。そしてその奪つ側は人だといつても理解していただくと、都市部は多くの人が集まり多くの二酸化炭素を排出し、それを酸素に供給する割合が少なく、結果的に温暖化現象を引き起こしてしまつて現象です。確かに最近の気候は子供のころに比べるとかなり気温が高い気がします。僕の子供のころでも温度が高くても30度くらいだったような気がします。

ヒートアイランド現象が起こることで樹木にも変化が見られてきます。多くの落葉樹は紅葉し冬になると来年また芽吹くために、自身の生き抜く手段として葉を落とします。それは生きていくための手段であり、今までそれらを繰り返して樹木は成長してきました。しかし、その紅葉する時期がものすごく短く、知らない間に冬となりあつたという間に葉を落とすようになっていけない状態になってしまっています。それは樹木にとってもストレスになり、来年の芽吹く葉にも影

響を及ぼしてしまっています。多くの緑があることでそれらを防ぐことができないのであれば、なんらかの対策を講じてほしいですね。

### この先の子供たちの環境

まだまだ先の話ではないと思います。この先50年、100年後にははたして人類はどのような環境まで低下しているのでしょうか。人の歴史はまだまだ若いのです。そんな人が今地球を動かしているように感じます。

さらに今の生活環境も昔に比べ悪い犯罪が多く増えていると感じます。僕は違つのかも知れないけれど、緑のある生活を送ればきっといい生活環境になるだろうなと思います。今子供たちはどこで遊べるのかを探しています。公園で遊んでも誘拐されるかもしれない、近くで遊んでも交通事故にあうかもしれない、だから家で遊ぶ。ゲームやパソコンの前に座り、ほとんど目が悪くなり、頭でっかちの子供が多く増えています。これはなにかと心配です。

もう一度振り返りませんか。僕たちの子供のころを、どんな金持ちでも一緒になって田んぼや空き地でおいかけてついで野球をしたりしたからこそ、今があると思いませんか？子供のころは遊ぶことが仕事です。でも、それさえも今の時代にはあつていなくなつてしまつた。



小さい時から勉強をしろ、習い事をしろ、でないと将来がない。なぜこんな時代にわたってしまったのでしょうか。環境を考えることは将来を考えることでもあり、僕はパソコンとかよりももっと自然とともに遊んだりすることのほうが大事だと思います。危険だからとか、危ないからといって子供を過保護にしてはいけません。自分が危険を感じることでもあったらいけないという気持ちを育てなければいつまでも犯罪も減りません。そう感じます。子供たちの環境を緑を通じて整備していくことで犯罪が少しでも減ればいいなと思います。

### 一元R財団奨学生への寄付

#### 一元R財団奨学生方ワンセフ

吉田 隆彦

一元R財団奨学生、澤屋奈津子さんを通じて、アフリカの孤児院施設へ物資を提供する為、9月9日、16日、2週に分けて寄付が集められました。

初回の9日で、は5万3千237円が集められました。皆様ご協力ありがとうございます。



53,237円

1つになりました。

澤屋奈津子さん / 06-08年度R財団奨学生  
ホストRCC 名古屋大須RCC

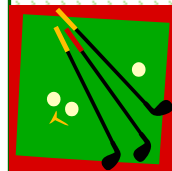
## 第133回ゴルフ例会

平成22年9月8日(水)

於：三好カントリー倶楽部  
西コース



雨天の為中止となりました。



9月23日(木) 例会の案内  
法定休日

9月30日(木) 例会の案内

卓話

「豊田秀吉公を語る」

尾張國・中村 豊國神社

宮司 村上 廣さん  
(工学博士)

紹介者 岩崎 征二さん

広報委員会

近藤 明美・前田 隆久

近藤宏一郎・杉浦 令淑

\*本文は、原則、頂いた原稿を転載しています。



Letter from

AUSTRALIA

(前回の続き)

28日は Whitsunday spiritual day と言って創立記念日でした。Junior school 1年生から senior school 12年生まで校舎をリレーで走りました。各学年1クラス一人ずつ代表者を選んで走りました。6年生の trinity の代表は私のホストブラザーの Callum でした。私の学年(10年生)の代表は足ものすごく速い男の子でした。

競争ではなくて、Ambrose, Barnabas, Charles, Trinity の順に走って、校舎をまわりました。12年生まで走り終わったら、クラスごとにケーキを食べました。Trinity のケーキはクラスカラーの緑色のケーキでした。おいしかったです～!

みんなで誕生日の歌を歌いました。学校にはなくクラスでした。そこでまたクラス対抗みたいになってしまい、どのクラスが一番大きな声で歌っているか対決みたいになっていました。楽しかったです。

制服に冬服というものはありません。普通の制服は半袖のシャツにスカート、またはズボンです。長袖のシャツはなく、半袖の上にセーターをきます。冬ですが暑いので、いら

や、と思っていたら、雨の日がものすごく寒くなって、やせ我慢も限界に届くほどでした。次の日、ホストマザーが「これから寒くなるから必要だよ」って教えてくださったので、ホストマザーとセーターを買いに行きました。赤い色で左胸に学校の校章がついています。

2学期では生物学だったのですが、3学期になって化学に変わりました。先生も変わり、女性の先生になりました。ちょっと厳しい先生で、怖いなぁ...と初めて会ったとき思いました。周期表は一緒なので、化学は日本では好きな教科でしたから、なんとかついていけています。

問題は、英語でなんというかわからないことです！一番初めの“水素”なんてもちろん日本語ですよ！?リチウムとか、ベリリウムとかは一緒なのですぐに出てくるんですが、Hyd-rogen はすぐにはでてこなくて、困ってます。先生が英語でかかれた周期表をくださって、ものすごくお世話になってます!

10.08.07 渡辺彩加  
(一部略・以降順次掲載します。)

